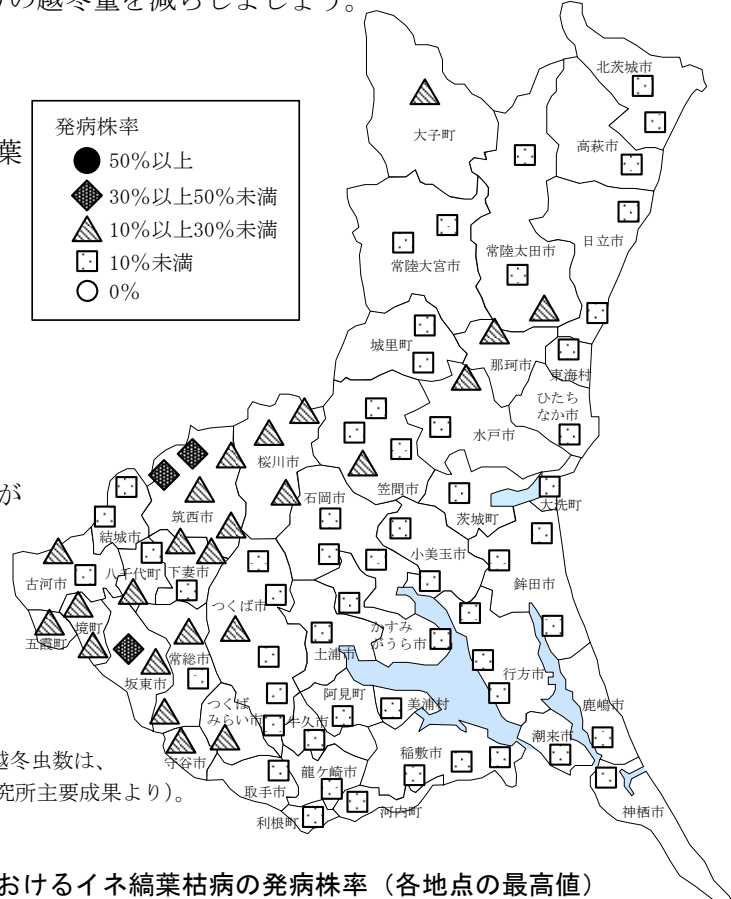
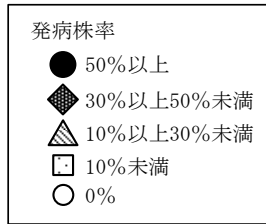


ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発生状況と防除対策

県内 84 地点の水田において、ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発生状況を調査したところ、県内全市町村で発生を確認しました。翌年の縞葉枯病の発生を少なくするためには、引き続き徹底した防除対策が必要であり、速やかにひこばえをすき込むとともに、冬季の畦畔等の除草に努め、ウイルスを保有したヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう。

【現在の発生状況】

- 令和 6 年 9～10 月に調査した結果、全市町村でひこばえにおけるイネ縞葉枯病の発生を確認した（図）。
- 県西地域の平均発病株率は 8.8%と県内で最も高かった（表）。
- 市町村別の最高発病株率は、0.3～33.3%であった（図、表）。



【防除対策】

- ひこばえは、ヒメトビウンカの増殖・越冬場所となる他、ひこばえが発病株である場合、ヒメトビウンカの保毒虫率上昇の原因となるため、収穫後は速やかに耕起する※。
 - 畦畔、土手等のイネ科雑草は、ヒメトビウンカの越冬場所となるため、除草に努める。
- ※ 畦畔のイネ科雑草におけるヒメトビウンカの越冬虫数は、水田の耕起時期が早いほど少ない（R1 農業研究所主要成果より）。

図 ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発病株率（各地点の最高値）
注1) 調査した 5 圃場/地点のうち、最も高かった圃場のデータ 注2) 1 圃場あたり 300 株の見取り調査

表 ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の各市町村別の平均発病株率および最高発病株率

地域	市町村	発病株率 (%)		地域	市町村	発病株率 (%)		地域	市町村	発病株率 (%)	
		平均 ¹⁾	最高 ²⁾			平均	最高			平均	最高
県北	日立市	2.2	9.3	県南	鹿嶋市	0.2	1.0	県南	守谷市	8.6	12.7
	常陸太田市	4.7	16.0		神栖市	1.3	2.7		つくばみらい市	6.1	11.3
	高萩市	2.7	4.3		鉾田市	0.7	2.0		利根町	1.9	5.3
	北茨城市	1.9	3.7		潮来市	0.3	0.7		県南平均	2.6	-
	常陸大宮市	1.7	5.7		行方市	1.8	5.0		下妻市	5.6	17.0
	大子町	6.7	15.3		鹿行平均	1.0	-		筑西市	11.6	31.0
県北平均	3.2	-				桜川市	7.1	17.3			
県中央	水戸市	7.4	12.7	県西	土浦市	2.7	6.0	結城市	1.8	4.7	
	ひたちなか市	2.2	3.3		石岡市	3.5	9.3	常総市	8.1	21.0	
	那珂市	7.5	13.7		かすみがうら市	1.3	3.3	八千代町	6.2	13.7	
	小美玉市	1.7	7.7		龍ヶ崎市	0.1	0.3	古河市	5.9	19.0	
	茨城町	0.5	1.3		牛久市	3.9	5.0	坂東市	20.8	33.3	
	大洗町	3.7	6.3		稲敷市	1.0	3.3	五霞町	12.8	17.0	
	東海村	1.6	5.0		美浦村	0.6	1.3	境町	8.8	26.3	
	笠間市	3.5	11.7		阿見町	2.6	4.0	県西平均	8.8	-	
	城里町	0.6	1.7		河内町	2.5	6.7	全県平均	4.5	-	
	県中央平均	3.3	-		取手市	1.9	5.0				
					つくば市	2.8	13.7				

1) 各市町村1～6地点の平均値。1地点あたり5圃場調査（300株/圃場）
2) 市町村内で最も高かった圃場のデータ